

「水木しげるロードリニューアル事業」 について

境港市 建設部 水木しげるロードリニューアル推進課

1. はじめに

水木しげるロードは、JR 境港駅前から水木しげる記念館のある本町アーケード商店街までの延長約 800 メートルの道路と沿道の店舗などで構成されています。

平成 4 年、衰退する商店街の活性化を目的に一部歩道の拡幅とあわせ、本市出身の漫画家水木しげる先生の代表作である「ゲゲゲの鬼太郎」に登場する妖怪などのブロンズ像を歩道内に設置し、親しみの持てる街路としての整備が開始されました。

その後もブロンズ像は年々その数を増やし、現在は、153 体までになりました。また、沿道の 100 余りの店舗では、妖怪に関連するグッズやお土産を販売しており、妖怪のキャラクター（着ぐるみ）も毎日登場するなど、「無料のテーマパーク」として、連日賑わいをみせています。



JR 境港駅

2. 来訪者の動向

水木しげるロード誕生当初、全国的にも非常に珍しい取組ということもあり、多くのメディアで報道され、さらには、妖怪ブロンズ像が盗まれる事件も発生したことから、全国版のニュースにも取り上げられました。それらの効果もあり、誕生翌年には、約 30 万人が訪れ、その後も、「妖怪」をテーマにまちづく

りを進める中、平成 15 年には、待望の「水木しげる記念館」がオープンし、「妖怪のまち」としての人氣が定着してきたことに加え、「ゲゲゲの鬼太郎」のアニメ、映画や、ドラマ「ゲゲゲの女房」などの大ヒットにより、平成 22 年には、過去最高となる 372 万人が訪れました。

その後は、年間 200 万人前後で推移しており、今年は、前年に比べて 2 割の増加と好調を維持しています。



ゴールデンウィークで賑わう水木しげるロード

3. 水木しげるロードリニューアル事業

(1) 事業着手の決断

こうした状況の中、これまで官民協働で育て上げた水木しげるロードの賑わいを将来にわたって継続させるためには、今この時期に 10 年、20 年先を見据えた次の一手を打つ必要があるとの思いから、平成 25 年 12 月に市長がリニューアル事業の着手を宣言しました。

この事業は、好調な状況が続いているうちに次の一手を打つという観点から相当なスピードが求められるため、年が明けた平成 26 年 1 月には、早くも企画部門、観光部門、建設部門の職員による 10 人の市内プロジェクトチームが発足し、以前、本市でまちづくりの講演をいただいた東京大学の堀繁教授のご指導のもと、基本構想の策定に取り掛かりました。

(2) 基本構想

基本構想の策定にあたっては、堀教授を含む関係者 27 人で構成する検討委員会を立ち上げました。時間の制約がある中、実質 2 ヶ月の短い期間でしたが、水木しげるロードの課題や将来像について様々なご意見をいただきました。その結果、「誰もが訪れたいくなるおもてなしとエンターテインメントのロードづくり」を基本理念とし、「妖怪の魅力を堪能できる世界で唯一のロード」、「車が主役の道から人を大事にする道」としてリニューアルを実施することが決定しました。

(3) 基本計画・基本設計

平成 26 年度からは、基本計画及び基本設計の策定に入り、引き続き東京大学の堀教授に受託研究という形で関わって頂くこととなり、改めて検討委員会を立ち上げました。部会も含めて 15 回の会合を行い、委員各位に多大なるご尽力をいただく中、年度内に基本設計がまとまりました。

基本設計では、基本構想を具現化するため、主に以下の内容が決まりました。

① 歩道

車道を一方通行化（東から西向き）とし、さらに蛇行させることで、変化に富んだ広い歩道空間を確保。だれもが安心して安全に歩ける歩道とした。

② 滞留スペース

広がった歩道には、歩行者に楽しく休んでもらうため、多くの滞留（休憩）スペースを設けた。また、このスペースを活用したミニイベントなどの実施も想定している。

③ 交差点（横断歩道）

従来の横断歩道は、車道の高さにあわせていたため、交差点部分では段差が生じていたが、交差点部分の車道を歩道の高さにあわせることで、段差を解消し、バリアフリーに配慮した。

④ 妖怪ブロンズ像の配置

これまでランダムに配置していた妖怪ブロンズ像を水木しげるオリジナルキャラクターや住みか別などのグループに分け、さらには、向きや間隔、背景なども考慮し、再配置した。

また、18 体の新設ブロンズ像の設置を決定した。

⑤ 街なみの整備

昭和レトロや水木作品の世界などをテーマとして、統一感のある街なみの整備の推進を地元商店街等に提示した。

⑥ 夜間照明演出

全線を対象にこれまでにない様々な仕掛けを施した夜間照明演出を実施。



検討委員会の様子

(4) 妖怪ブロンズ像

今回、水木しげるロードの最大の特徴・魅力である妖怪ブロンズ像の取扱が基本設計における重要なポイントとなりました。平成5年のオープン時には、23体でスタートした妖怪ブロンズ像も現在では153体を数えるまでになり、これほどの数のオブジェを歩道に設置した事例は、全国的にも例がありません。この中には、公共以外が設置したものが多く含まれていますが、特に観光協会が、全国の妖怪ファンなどに向け、1体100万円でスポンサーの公募を行ったところ、申し込みが殺到し、40体が公募事業により設置されました。

しかしながら、妖怪ブロンズ像の追加設置を重ねてきた結果、テーマ性のないバラバラな配置となってしまう、さらには、多くのお客様の楽しみのひとつである記念撮影に対する配慮に欠けた配置となっていました。

そこで、水木プロダクションなどの関係者と協議を重ねた結果、妖怪ブロンズ像を「水木マンガの世界」、「神仏吉凶を司る妖怪」などのグループに分け、広げた歩道のスペースに向きや間隔、背景なども十分に考慮したうえで再配置することとしました。

また、今回の事業にあわせて18体を新設することが決定しており、リニューアル完成後は、171体となる見込みです。

この配置の決定については、設計を行う中で最も苦勞した部分であり、関係者との協議・調整に多くの時間を費やしました。



ブロンズ像

(5) 社会実験の実施

平成27年度には、詳細設計に取り掛かる中、国土交通省が公募する「道路に関する新たな取り組みの現地実証実験（社会実験）」に採択され、設計と並行しながら、現地実証実験にも取り組むこととなりました。実施にあたっては、これまでに進めてきた水木しげるロードリニューアル事業の設計内容を最大限に盛り込み、リニューアルによる効果を検証し、この結果を詳細設計に反映させることで、地元住民の方などとの合意形成を図ることを目的としました。

名称は、「水木しげるロード道路空間の再配分による賑わい空間の創出に向けた社会実験」とし、以下の内容をアンケート、交通量調査等により検証しました。

- ① 道路空間の再配分調査（L=600m）
 - ・車道を2車線から1車線に変更し、歩道を拡幅
 - ・歩行者の滞留スペースを確保し、賑わいを創出
 - ・自転車通行帯を設け、歩車分離を図る
- ② 一方通行等調査（L=600m）
 - ・区間内は一方通行とし、迂回路を設定

- ・車道にはスラローム、ハンプ、狭さを設け、車両の速度低減を図る
- ・沿道商業施設に必要な荷捌きスペースを確保する

③ 賑わいの創出

- ・拡幅した歩道の滞留スペースに人工芝を敷き、ミニイベントを実施
- ・その他の滞留スペースにテーブル、ベンチを設置し、休憩場所として活用
- ・車道と歩道の仕切りに花のプランターを設置

現地実証実験は、11月21日から29日の9日間実施しました。短期間での準備となりましたが、関係各位のご尽力により、予定通りの内容で、事故等特段のトラブルもなく、無事に完了することが出来ました。

水木しげるロードリニューアルの狙いである賑わいの創出という面では、広がった歩道でのミニイベントや約1万本の花を飾った効果もあり、当初の3日間（3連休）で約5万6千人の来訪者を迎えることができました。

検証結果としては、歩行者や車両等、対象ごとに設定した安全性や快適性、実験が及ぼす各種の影響等についての目標値を概ね達成したところですが、住民アンケートなどの結果から、様々な課題も浮き彫りとなりました。

中でもポイントとなる部分は、総論として車が主役の道から人を大切に作る道となることや、歩道を広げてイベントを行ったり、休憩スペースとして活用することなどについては、6割から7割の賛同がある一方で、それらを実現するための1車線化やスラローム化については、意見が割れる結果となったことです。

また、来訪者に対して行ったアンケートでは、8割から9割を超える方が、今回のような整備を行うべきであるとの回答があり、水木しげるロードリニューアル事業に対しての期待の高さを示す結果となっています。

詳細設計においては、これらのギャップを可能な限り埋めていくための変更を行いました。ハード面だけでは解決出来ない問題も多くあります。

そこで、地元の方々には引き続き、事業の意義や目的を丁寧に説明していくことと同時に、課題や問題点について、一緒に考えていただき、解決策を探っていきたいと考えております。



社会実験の様子

(6) 工事に向けて

現在、道路の詳細設計がほぼ完了し、地元への工事説明を開始したところです。通常の道路工事とは異なり、多くの観光客を迎える中での工事となるため、工事の期間や時期、方法などについても様々なご意見を頂いております。工事期間中は、観光地としてマイナスの影響は避けられませんが、その影響を最小限にとどめることが出来るよう、集客減少対策についても合わせて考えていく必要があります。

また、一方通行化などにより地元の方々には、ご不便をお掛けすることになりますが、水木しげるロードのさらなる発展のためにご理解とご協力をお願いしているところです。

(7) 今後のスケジュール

着工は、本年中を予定しており、完成は、平成31年3月を目標としています。その間には、新設ブロンズ像の sponsor 公募や設置・お披露目、部分的なオープン、夜間照明演出のお披露目など様々な話題を提供し、集客にも配慮していきたいと考えております。



リニューアル完成イメージ



夜間照明演出のイメージ

(8) 街なみの整備について

これまで、設計を進めていく中、沿道の街なみについても議論が行われてきました。最終的に沿道については、「昭和レトロ」と「水木作品の世界」をテーマとして統一性のある街なみの整備を推進するとの方針が決定しました。

地元の商店街等にこの内容を提言したところ、複数の団体から、街なみ整備についての発意があったため、市より、国土交通省の街なみ環境整備事業への申請を行い、平成 28 年度より事業化が決まりました。

今後、地元が主体となって街なみ整備についてのより詳しいルールを作り、順次、店舗の外観整備等を実施していくことになっています。

4. これからの水木しげるロード

平成 26 年 1 月より、水木しげるロードリニューアル事業に着手し、2 年以上が経過しました。この間、様々な分野の方々のご支援、ご尽力をいただき、ようやく設計が固まり、いよいよ年内に着工することとなりました。水木しげるロードのリニューアルにより、これまでの水木しげるロードの魅力を維持しながら、さらに新たな要素を加えることで、これからも多くの観光客に楽しんでいただきたいと思います。

しかしながら、この事業のもう一つの重要な理念である「妖怪の魅力を堪能できる世界で唯一のロード」を真に実現するためには、ハードを改修するだけでは不十分であり、水木しげるロードの主役である妖怪たちの魅力を最大限に引き出して、来訪者に味わっていただく必要があります。その方法は様々あると思いますが、一つは、水木しげる先生が感じた妖怪の世界というものを可能な限り表現していくことで、日本人が昔から持っていた妖怪を感じる心呼び起こし、人を惹きつけ、今後、水木しげるロードが将来にわたり賑わいを継続していくことに繋がっていくのではないかと考えているところです。

今年の 3 月 8 日、水木先生が生きておられれば 94 回目となる誕生日に「水木しげる先生を偲ぶ会」が境港市で開催されました。当日は、会場の定員を大きく上回る大勢の方々が訪れ、改めて水木先生の偉大さを思い知らされたところです。この水木先生のお名前をいただいた「水木しげるロード」にこれからも多くの方々に訪れていただけるよう、水木しげるロードリニューアルの完成に向けて、関係者の皆さんと一丸となって取り組んでいきたいと考えています。